

8. 中国（地域別調査機関：（社）中国地方総合研究センター）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計動向 関連	良くなる	その他専門店〔海産物〕（経営者）	・予約状況を見ると雪のため例年より来客数が少なくなっている。
	やや良くなる	商店街（代表者）	・入学シーズンなど季節的な要因も一部にはあるが、総じて商店街への来客数が次第に増加してきている。
		スーパー（店長）	・春にかけて駅前の再開発が完了し、ホテル、クニリックモール、商業施設等のオープンも控えている。多少良くなる。
		スーパー（店長）	・販売促進行事等が重なる。
		スーパー（業務開発担当）	・現在前年実績をクリアしており、節約志向は変わらないものの、販売点数の伸びの中に少し高めの商品も含まれており、これが販売量を押し上げている。
		コンビニ（エリア担当）	・例年2月は客の動きが良くないが、天気が回復に向かうため、今よりは客の動きが多少なりとも良くなり、売上が伸びる見込みである。
		コンビニ（エリア担当）	・天候に左右される部分があるが、昨年上半期にかなり苦戦し前年割れの状況だったが、今年は2月から始まるキャンペーンの景品の評判が良く、売行きも結構良くなり期待できる。
		乗用車販売店（店長）	・初売りから来客数、販売台数ともに前年並みに回復している。
		乗用車販売店（営業担当）	・エコカー購入補助金終了の影響がまだ尾を引いている。消費税の増税が本格化すれば、また需要の先食い販売量の増加は見込めるが、その後はまた冷え込みそうである。
		乗用車販売店（副店長）	・各社とも3月決算期には何としても販売台数を伸ばしたい意向であり、キャンペーンなどに例年以上に力を入れて取り組むことが予想される。このため来客数や販売台数は増加する見込みだが、販売会社の収益はあまり良くならない。
		一般レストラン（経営者）	・現在の景気は一番底なので、今後は良くなっていく。
		一般レストラン（経営者）	・政治が心配だが景気は確実に上向いている。
		都市型ホテル（総支配人）	・雪による影響も収まり、ビジネス客、観光客、学生などの動きは現状より良くなり、予約状況も前年並みとなっている。
	テーマパーク（業務担当）	・春先にかけて閑散期が続くものの、花にちなんだ利用促進イベントを3月下旬から開催し誘客を図ることとしている。花の品種や数を増やし、特徴付けを行うことで例年以上の来園者を見込んでいる。	
	テーマパーク（広報担当）	・新規店舗のオープンもあり、春のイベントにも力を入れているため、気候さえ良ければ来客数は増加すると見込んでいる。	
	変わらない	商店街（代表者）	・来客数よりも購入単価が低下していることの方が問題であるため、現状より良くなることはない。
		商店街（理事）	・景気が悪化する確定的な要素も良くなる要素もあまり見当たらない。
		商店街（代表者）	・政治経済状況に良くなる要因がないため、消費が向上しない。
		一般小売店〔靴〕（経営者）	・シーズン初めや売出しなど、企画を打ち出しても、その一瞬にしか客足が伸びず、ある程度持続できないのであまり変わらない。
一般小売店〔印章〕（経営者）		・会社関係からの注文が少なくなっており、先行きは見えない状態である。	
一般小売店〔酒店〕（経営者）		・1月は寒さも厳しく景況感も乏しかったが、2～3か月後は天候も回復し、今以上に悪くなることにはならない見込みである。また商工会議所など関係団体がB級グルメに取り組んでいるが、まだ活性化につながる好材料とはなっていない。その一方で政治の混乱や日本国債格下げのニュースばかりで、消費者心理が向上する情報がない。	
一般小売店〔紙類〕（経営者）		・個人客の家計に少々ゆとりが出てきている様子だが、この先それが継続する保証がないので景気は変わらない。	
百貨店（営業担当）		・寒さによる野菜など食料品の価格高騰の影響で、春になっても必要がなければ衣料品の購入はしないという状況に変わりが無い。	
百貨店（営業担当）		・10～12月にかけて景気が回復するかに思えたが、1月のセールが終わったとたん売上の伸びが止まってしまい、先行きが分らなくなっている。ただ売上状況はテナントによりそれぞれであり、全体的な買い渋り傾向ではなく、客の嗜好と合えば売れる状況であることから、全体的には変わらない。	

百貨店（販売促進担当）	・売上拡大には購買客数の増加が不可欠であり、バレンタイン、春の新生活と大型商戦もスタートするが、1月の商況をみても価格が購買決定の大きな要素となる状況が継続するため、一気に景気が回復する要素が見当たらない。
百貨店（売場担当）	・顧客にとっての百貨店のメリットは、2～3月の売りつくし、決算処分、ギフト解体などで在庫処分品が買える点である。そのためセール売上は維持できているが、マザーニーズやフレッシュアーズなど従来目的買いであったものは、着回しにして新たに購入しなかったり、低価格の量販3点セットものを選択したりして安く済ませる傾向にある。一方、バレンタインデーやホワイトデー向けのギフトは前年超える基調にあり、何とか前年水準を維持する見込みだが、一昨年比でみると85%程度の水準となっており、経費カットの流れは変わらない。
百貨店（購買担当）	・例年だとアパレル業界から春物が少しずつ投入され、ヒット商品を生み出しながら少しずつ動き始める時期である。しかし、今のところ全くと言ってよいほど春物の動きがない。一方、クリアランスや良い物が安く買えるギフト解体セールなどでは顕著に数字が伸びている。2～3か月後にセールが終わる時期の動向は、現時点では良いのか悪いのか、判断が付きにくい。
百貨店（売場担当）	・売上は少し落ち着いてはきているものの、まだ前年を超えるところまでは至っておらず、現状のまま推移する様相であり、上向き要素が少ない。
百貨店（電算担当）	・1月2～4日の大雪の影響で交通機関が止まり、来客数が減少したため、売上が昨年比で8%、金額では2日分の売上高に相当する4,000万円減少しており、その後なかなか元に戻らない状態である。
百貨店（販売担当）	・セール期の客の購買動向をみても、税制の先行きに不透明感があるなかでは、現在の状況が大きく改善されることはなく、売上も良くて前年クリアに止まる程度である。
百貨店（営業企画担当）	・ここ2～3か月の動きに変動はないが、6か月以降はやや持ち直す見込みである。
スーパー（店長）	・販売件数も客単価もやっと前年をクリアできてきている。来客数も前年並みであり、今後この状況に大きな変化はない。
スーパー（店長）	・好転する要素が見当たらない。
スーパー（販売担当）	・来客数の増加も見込めず、客単価が低いままの状態がしばらく続きそうである。
スーパー（管理担当）	・商戦時期である年末年始にかけて大雪となった影響が大きく、寿司やオードブルなどのキャンセルが相次ぎ、ロスが増加した。しかし後半にはほぼ前年並みまで回復してきているため、今後は売上、荒利ともほぼ前年並みで推移する。
コンビニ（営業担当）	・周辺環境に大きな変化がない。
衣料品専門店（地域ブロック長）	・単価的には引き続き安い物が売れるが、徐々に高額で良い物もやはり売れてきている。今後3か月は同じような状況で、こうした傾向が続いていく。
家電量販店（店長）	・家電エコポイントを目当てで12月までに駆け込みで購入した人以外は、家電エコポイント自体がまだあるとの認識が薄い。なかなか購入につながらない状況が続く。
乗用車販売店（業務担当）	・年末から続く悪天候が今後も続く見込みで、客足に影響を与えそうである。
自動車備品販売店（経営企画担当）	・単価低下と必要以上のものを購入しない客の動きは変わらない。タイヤ交換での来客数は増える見込みだが、売上はその際のついで買い次第である。
その他専門店 [時計]（経営者）	・当地の人口減少率は県内でもワースト1であり、この不景気で消費が伸びることもないため、経営をコンパクトにして、観光等で当地を訪れる人を増やすことでバランスを取っていくしかない。
その他専門店 [和菓子]（営業担当）	・良くなる要素がない。
その他小売店 [ショッピングセンター]（営業担当）	・12月、1月と売上高が前年並みで推移しており、今後も同様の状況が続く。
一般レストラン（店長）	・これ以上悪くなりようのないところまでできているが、週末には若干下げ止まりを感じる。
スナック（経営者）	・客や各組合理事長の集まりの中で、景気が上向きになる話が出てこない。
その他飲食 [サービスエリア内レストラン]（支配人）	・購買意欲が減少している状況だが、売上は前年と同じような数字で推移している。

	観光型ホテル（スタッフ）	・昨年に比べると3か月後の予約状況はやはり悪い。
	都市型ホテル（支配人）	・景気の低迷と言うよりも、閑散期の来客状況が市内同業他社と同じであるため、売上も含めて変化がない見込みである。
	都市型ホテル（スタッフ）	・個人客は少し増えてきているようだが、企業での利用がまだ減少したままであり、回復するにはもう少しかかりそうである。
	旅行代理店（経営者）	・消費税の税率引き上げの話もあり、客はますます旅行に行く気分にはならない。しかし、日帰りの安い物には多少動きがある。
	通信会社（社員）	・新たにサービス利用をしたいとの問い合わせが少ない。
	通信会社（通信事業担当）	・加入キャンペーンに対する反応は非常に鈍く、通常とほとんど変わらない状態である。
	通信会社（営業担当）	・状況が変化する材料が見当たらず、客の動きが継続してよくなるとは考えにくい。
	通信会社（営業担当）	・地上放送のデジタル化への対応としてケーブルテレビを選択する顧客もいる。一方、デジタルテレビ購入を機にアンテナ受信に切替える顧客も多く、7月までこの状況は変わらない。
	通信会社（総務担当）	・客に購買意欲がうかがえず、需要の伸びが見込めない。
	通信会社（広報担当）	・新生活商戦に突入し、商品ラインナップとプロモーションにより市場全体としては大きく販売の伸びる時期であるが、各社の競争激化により優劣が出てくるかも知れないため、予測が難しい側面がある。
	テーマパーク（管理担当）	・景気の動向からも全体的に明るい要因がない。
	その他サービス〔介護サービス〕（管理担当）	・業界の景気の影響より、社内の戦略検討が先である。
	設計事務所（経営者）	・このところ建築設計業界に明るい話題がない。2～3か月先に今より良くなると思える情報が入ってこない。
	設計事務所（経営者）	・建築関連で景気が改善するような話題は何もみつからない。
	住宅販売会社（販売担当）	・正月イベントへの来場者数が前年比1割減となり、今後も受注量は増えそうにない。
やや悪くなる	商店街（代表者）	・天候不順もあるが、全体的に非常に閉塞感があるため、観光客を含む客の動きが緩慢である。
	スーパー（店長）	・2月は各社とも決算月に突入し、販売促進策が強化され、集客面で苦戦が見込まれる。
	スーパー（営業システム担当）	・天候不順がまだ続く見通しであり、生鮮品に加え精肉にも影響が出てくる可能性が大きく、安定した仕入れが見込めない以上単価の高騰は仕方がない。
	コンビニ（エリア担当）	・鳥インフルエンザの影響で、今後卵や鶏肉の高騰が大変危惧される。
	衣料品専門店（地域ブロック長）	・引き続き単価は下落傾向にある。春物の動きも鈍く、実需傾向が強くなるため、販売期間が短縮され値下げを先行せざるを得ないため利益が圧縮される。
	衣料品専門店（販売担当）	・客の目が厳しく、なかなか購入しない。
	乗用車販売店（統括）	・エコカー購入補助金による需要の先食いの影響が、今年度中続く。
	高級レストラン（スタッフ）	・昨年と予約状況を比較しても、この先3か月は予約数が前年をかなり下回る状況となっている。
	観光型ホテル（支配人）	・現時点での2月以降の入込見込みは前年を大きく下回っており危機的状況である。唯一、婚礼予約のみは件数で前年比プラスとなっているものの、営業を強化したインバウンドは動きが鈍い。
	都市型ホテル（従業員）	・宴会部門で婚礼市場が縮小を続けており、今後の回復は見込めない。施設は増加しており、それに更に拍車がかかる。
	タクシー運転手	・客との会話では、最近特に年金支給年齢が上がるとか、消費税、健康保険料、介護保険料が上がるなど生活が苦しくなるような話が持ちきりである。今後も消費は落ち込んでいく。
	ゴルフ場（営業担当）	・まだ寒い日が続けば来場者が減る。景気は多少回復してきているが、地方のサービス業は不振である。
	美容室（経営者）	・客は皆、今の状況では絶対景気は良くなれないと言っている。
	美容室（経営者）	・節約志向がそのまま維持されるため、このままでは悪循環となり景気は徐々に悪化していく。
	設計事務所（経営者）	・競争激化のなかで受注単価の下降傾向が続く。

	住宅販売会社（従業員）	・低水準の中で競争が激化しており、収益率の悪化が見込まれる。
	住宅販売会社（経理担当）	・景気の先行きが不透明なため、新たな景気対策がなければ住宅業界の景気改善に期待ができない。
悪くなる	商店街（代表者）	・閉店していた2店舗を商店街の力で再開させたが、3～4月にかけて4店舗が退店の予定となっているため集客力が落ちる。
	一般小売店〔茶〕（経営者）	・雪のため、せっかくの高齢者向けのイベントが開散としていいる。今年は2月にも野外イベント事業がたくさん行われるが、雪のためになかなか厳しくなりそうである。
	スーパー（財務担当）	・消費者の所得環境が改善されていないため、今後も節約志向による来客数の減少が続く。
	衣料品専門店（経営者）	・セールのときに欲しいもの少しだけ買う傾向に変化がない。
	家電量販店（店長）	・12月からの家電エコポイント制度の変更により、テレビ、冷蔵庫の売上の減少が顕著であり、3月末の制度終了に伴い、対象商品の売上が更に減少する。また2月上旬、近隣に競合店がオープンするため、その影響が当分続く。
	家電量販店（店長）	・家電業界においては11月の家電エコポイント特需以後は、エコポイント対象商品を中心に実績低迷が続いている。直後の反動に比べれば反動幅は縮小傾向ではあるものの、今後の景気回復は非常に難しい。
	住関連専門店（広告企画担当）	・単価の低下に拍車がかかっており、良いものが売れない状況では全てが良くならない。
	競艇場（職員）	・今月ほど売上が見込める月がない。
企業動向関連	良くなる	-
	やや良くなる	電気機械器具製造業（総務担当）
	変わらない	農林水産業（従業者）
		食料品製造業（業務担当）
		木材木製品製造業（経理担当）
		化学工業（経営者）
		化学工業（総務担当）
		窯業・土石製品製造業（総務経理担当）
		鉄鋼業（総務担当）
		非鉄金属製造業（経理担当）
		一般機械器具製造業（総務担当）
		一般機械器具製造業（経営企画担当）
		電気機械器具製造業（広報担当）
		輸送用機械器具製造業（経営者）
		建設業（経営者）
		建設業（総務担当）
		輸送業（統括）
		輸送業（運送担当）
		通信業（営業企画担当）

		金融業（自動車担当）	・今程度の為替水準であれば輸出しても採算は確保できることから、おおむね現状程度の売上と利益が続く。
		金融業（営業担当）	・地元の中小企業が元気にならなければ景気が良くなったとの実感はなかなか持ちにくい、今後3か月で景気が良くなるとの期待も持てない。取引先の多くは成長を期待できず、成長につながる投資への意欲が停滞しているため、経営者も将来への展望を描けない。
		会計事務所（職員）	・製造業関連の業界の忙しさはこの先もまだ続くが、納品関係の業界は年々厳しくなっており、年度末に向けての受注の出足は例年以上に鈍い。
	やや悪くなる	鉄鋼業（総務担当）	・主要ユーザーである自動車会社は4～6月の生産量が現在よりも減少する見込みである。また原料の鉄鉱石や石炭は大幅な値上がりが見込まれるため、大幅なコストアップは避けられず、収益が圧迫される見込みである。
		金属製品製造業（総務担当）	・得意先からの値下げ要請や4月からの原材料価格の上昇懸念があり、収益性は悪化が予想される。
		輸送用機械器具製造業（経営企画担当）	・今月の受注内示量の急激な減少からすると、先行きが不透明であり状況はやや悪くなる。
	悪くなる	輸送用機械器具製造業（総務担当）	・新しい仕事の確保に動いている。
		その他製造業〔スポーツ用品〕（総務担当）	・周囲の企業の動向も相変わらず芳しくない。
雇用 関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	人材派遣会社（営業担当）	・企業からは1月になっても継続的に求人の引き合いがあり、数量的にはまだまだ少ないが、傾向としては上向きの感触がある。
	変わらない	人材派遣会社（社員）	・新年度に向かい採用活動の縮小もしくは停滞が考えられるため、官公庁委託事業の落札次第で景気状況に変動がある。
		人材派遣会社（営業担当）	・年度末までは求人依頼数も現時点の水準を維持できる見込みである。ただし年度替わりのタイミングで契約更新がなく終了する契約も多く発生する可能性があり、今月より景気が良くなるとまでは言えない。
		人材派遣会社（支社長）	・今後の労働者派遣法改正の進展が不透明である。
		求人情報誌製作会社（広告担当）	・先行きが非常に不透明で、各企業とも無理をして採用目標数まで採用人数をそろえることは控える傾向にあるため、積極的ななかでも慎重に対応している。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・市内では大型設備投資もなく、今秋に控えた山口国体絡みで建設業に動きがあるくらいである。パート以外には厳しい状況は今後も続きそうである。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・自動車関連会社などは業績が前年比で落ち込んだことや、求職関係でも来年の大学卒業生の内定者が過去最低であったことから、再来年についても比較的厳しいことを言う企業が多い。
		職業安定所（職員）	・生産関係は海外からの受注が好調であるが、円高の影響で今後生産や雇用を調整しなければならない心配がある。販売関係は、エコカー購入補助金の終了や家電エコポイント制度の見直しのため、今後反動での売上減少が心配される。大雪による景気への影響に関しては、観光業など悪い影響が及ぶ産業もあれば、雑貨販売業など良い影響が及ぶ産業もある。
		職業安定所（職員）	・新卒者就職促進奨励金制度の創設により、若年層向けの求人が増加していたが、3か月経過してその効果も一段落した感がある。一時求職者数が減少したため有効求人倍率は上昇したが、1月以降求職者数は増加すると予想され、一進一退の状況が続く見込みである。
		民間職業紹介機関（職員）	・少しずつではあるが増員目的の求人案件が増えてきている。補充のための採用一辺倒から将来を見据えてのリクルーティングに変わる状況も出始めてきているため、雇用状況も上向き見込みであるが、個人消費には結び付かない。
		民間職業紹介機関（人材紹介担当）	・今後も閉塞感はず変わらず給与などが増える兆しもない。
	学校〔短期大学〕（学生支援担当）	・一般職の求人数に変化がみられない。	
	やや悪くなる	職業安定所（職員）	・特に、高校生の状況が厳しい。例年、複数内定を得た大学生は就職先以外の企業を辞退するため採用枠が空き、それを高校生で埋める動きがあった。しかし今年は大卒も状況が厳しく辞退者が少ないため、高卒求人の提出が少なくなっている。
	悪くなる	-	-